くすっ子

屈巣小学校だより
令和３年1月29日
≪花いっぱい　夢いっぱい　笑顔いっぱい　屈巣小≫　　Ｎｏ.１０

勉強は楽しい

日本では今、受験シーズンまっただ中です。コロナ禍で試験も感染症対策を徹底して行われています。各学校には決められた募集人数（定員）がありますので、当然募集人数より出願者数が上回れば不合格者も出ます。合格するには出願者の中でも高得点を取らなくてはなりません。出願者数の多い学校ならばなおさらです。受験生は志望校「合格」を目指し、必死で勉強に勤しみ、おそらく勉強を「楽しむ」余裕などはないかもしれません。

さて、今年度行われた埼玉県学力学習状況調査で次のような質問があります。「あなたは、勉強する理由についてどのように考えていますか。当てはまるものを①～④の中から１つ選んでください。」

①当てはまる　②どちらかといえば当てはまる　③どちらかというと当てはまらない　④当てはまらない

では、「勉強することが楽しい　好きだから」の質問に対して本校の児童はどう答えたでしょうか？①②を合計してみると、４年生は７０％台前半　５年生は６０％台後半　６年生は５０％台前半という結果でした。勉強の内容が難しくなるためか、学年が上がるにつれて数値が下がっていきます。

数年前に話題を呼び映画化もされた、「学年ビリのギャルが１年で偏差値４０上げて慶應大学に現役合格した話」という本をご存知でしょうか。そこには、勉強することの楽しさが素直に表現されていますので紹介します。　（文庫特別版　坪田信貴　著　角川文庫　平成２７年４月１０日）

ギャル（さやか）の手紙より

「ところが少し『勉強』というものを始めてみると、自分の何も知らなさ加減に驚きました。あれ、もしかしてこの先、このまま子供産んだらやばくないか？　何も教えてあげられない……と思いました。と同時に、自分の知らないことを知るってすごく楽しいんだなって感動したんです。本を読んでみたら意外におもしろくて、今までの時間が少しもったいなく思えたほどです。政治のことを少し先生（※坪田塾講師）に教えてもらった日から、ニュースキャスターが言っていることがほんの少しだけ理解できるようになりました。日本の歴史というマンガを読んだら、国内いろいろなところに行ってみたくなりました。私は、めちゃくちゃ損してたんだなって思いました。だから、もっと自分がいる世界を広げたいと思った。だから、本気で慶應に行きたいって思い始めたんです」。

まさに、知る喜び、「知」が生かされる喜び、知的好奇心や知識欲旺盛でがぜん勉強にやる気を出していく様子がわかります。今まで本気で勉強しなかったことを「損」とまで言っています。私は、子どもたちの学習の様子を毎日見ていますが、挙手の有無に関わらず、「問題が解けた」「できた」「わかった」「なるほどそうだったのか」という時の子どもたちの瞳は本当にキラキラと輝いていると感じています。もちろんその背景には教える教員も、学習の内容についてじっくり研究したりプリントを作ったり教具を作ったりＩＣＴを活用したりしているのですが、やはり教師冥利に尽きます。先のビリギャルは、勉強をがんばろうとしたきっかけを、「勉強できないことを坪田先生がほめてくれた」と言っています。本の中には、「君は無知族の酋長だね！　とほめてくれました。もしかしたら本当にバカにされていたのかもしれません。でも、すごいほめられている、肯定されている雰囲気があって、じゃあ勉強をがんばろうと初めて思えたんですね。」とあります。

自己肯定感と学力は比例すると言われていますが、まさにそのことを物語っています。本校でも各家庭でのご指導のおかげをもちまして県の学力調査の結果からも児童の学力の「伸び」が証明されています。学校でも、子どもたちの自己肯定感の向上と知的好奇心を引き出せるよう日々取り組んでまいります。

（校長　橋本　浩）